

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22710243

研究課題名(和文) ブータンにおける環境保護行政と村落社会の価値体系の再編に関する政治人類学的研究

研究課題名(英文) A Politico-Anthropological Study of Environmental Administration and the Reconstruction of Value Systems in Rural Societies in Bhutan

研究代表者

宮本 万里 (Mari, Miyamoto)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外来研究員

研究者番号：60570984

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円、(間接経費) 930,000円

研究成果の概要(和文)：現代ブータンは環境保護国として知られてきたが、近年の急速な民主化の動きは、君主制下での一元的で厳格な森林管理を環境保全成功の秘訣としてきたシステムを大きく変えつつある。本研究では、選挙や分権化をととした民主化プロセスの中で、自然や生物の保護に対する村落社会の人々の価値体系がいかによりゆらぎ、どのように再編されつつあるのか、その過程を現地での聞き取りと資料調査により明らかにした。特に、村落住民だけではなく森林局や畜産局、群議会、仏教僧、ボン教の呪術師を含めた複数のアクターによる日常的で多角的な交渉過程が、村落の価値体系と自然観を恒常的に書き換える様を動的に描出し、環境研究に新たな一石を投じた。

研究成果の概要(英文)：Although Bhutan has been known as environmentally friendly country, recent transformation of the polity is gradually affecting its attribute. This study aims to understand the process of reconstruction of the value system of the society locates in the protected areas in democratizing Bhutan. Through intensive field work and archival work, I examined and described daily negotiation between forest yards, park authorities, district heads, farmers, pastoralists, monks and religious healers over the values system which they think they should rely on after the election system enlightened peoples about their right to chose the government and better life. Although institutional formality in the conservation system gradually governs people's attitude and belief, religious and cultural practices has alternative route to reach at the political sphere to negotiate over environmental values in the society.

研究分野：地域研究

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：ブータン地域研究 デモクラシー 環境保護 統治 仏教 文化政治 自画像

1. 研究開始当初の背景

現代社会では地球環境保護と民主主義がそれぞれグローバルで普遍的な価値として流通し、民主主義は他の政治政体に比較して相対的に環境適合的だと考えられてきた。そうした国際政治空間での認識のなか、「非民主的」な絶対君主制の下で自然保護を国是とし、森林面積の維持と生物多様性の豊かな保存を達成してきたブータンの事例は「特殊解」[米本 1998]として位置づけられてきた。しかし、近年のブータンはグローバルな要請に答えつつ、王室政府の主導で君主制から民主制への漸進的な移行をはかっている。2006年には欲望の抑制による国民総幸福の達成を説いて現代ブータンの国家イメージの構築に主導的な役割を果たした第四代国王が、自ら退位して息子に王位を譲り、2007年には普通選挙制度が導入され、国民は自らの手で為政者(政権与党と首相)を選択するという新たな経験を獲得していた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現在進行中の民主化プロセスのなかで、政府が環境・開発政策をいかなる方向へ導き、制度としての民主主義の導入が、人々の国家観や共同体観そして「よりよい生」をめぐる価値の体系をどのように再構成しつつあるかを、村落社会における人々の日常実践を手がかりに考察することである。特に選挙や分権化をとおした民主化プロセスのなかで、自然保護区に暮らす村落社会の人々の価値体系がいかなる形でゆさぶられ、どのように再編されつつあるのかを示し、デモクラシーと環境保護の相関関係について新たな視点を提供する。

3. 研究の方法

本研究は、現地社会でのフィールド調査と文献研究をとおして進められている。主な対象地域となったのは、環境・開発政策の変化が端的に現れる自然保護区内の村落社会である。初年度は次年度からの本調査に向けた準備期間とし、調査対象地の選定と下調査、関連情報の省庁からの資料収集と聞き取り調査を実施した。選定においては中央から東部ブータン、そして南ブータンの比較を念頭に、該当地域を含む自然保護区での調査に重点をおいている。現地調査においては、村落住民へのインタビューのほか、郡開発委員会への参加者への聞き取りと、首都での国会議員および政府官僚、公園スタッフへの聞き取りを同時並行的に実施することとした。また、各自然保護区および郡での関連資料の収集と分析によって、森林・環境政策の各地での適用状況における差異と、その要因についての考察を行うこととした。

4. 研究成果

本研究では、ブータンの村落共同体の社会システムや生業形態、そして信仰実践に関する

自身のこれまでの基礎調査を土台として、それらの生活様式が、政府の環境・開発政策の下でどのような変化をたどりつつあるのかをいくつかの事例研究によって描き出すことができた。特に自然国立公園内に居住する移動牧畜民と焼畑耕作民の事例は、グローバルな環境言説がナショナルな政策決定に与える影響、ナショナルな政策群がローカルな地域の価値体系を再構築しようとする際の文化政治について、多元的に描き出すことが可能とした。また、民主化に伴う現代ブータンの政治文化の変容については、「選挙権を持つ近代的な市民」をめぐる境界の政治と、公の政治領域からの宗教者の排除に伴う文化的影響、分権化による保護区管理の交渉プロセスの多元化などに注目しながら考察をすすめることができた。そうしたなかで、デモクラシーの諸制度がいかに社会に引き受けられるのか、それと同時に環境主義の制度化がいかなる形で社会の諸階層に届き、あるいは翻訳されていくのかという二つのテーマを相互補完的な形で捉える可能性を示すことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

宮本万里、「現代ブータンにおける屠畜と仏教 殺生戒・肉食・放生からみる「屠畜人」の現在について」、『ヒマラヤ学誌』、査読有、第15号、pp.72-81、2014年。

宮本万里、「現代ブータンの祭りと儀礼 顔のない踊り「テル・チャム」」、『ユーラシアにおける仮頭の研究』、査読無、pp. 49-57、2013年。

宮本万里、「現代ブータンの環境主義」、『科学』、査読無、第81巻6号、pp. 571-576、岩波書店、2011年。

宮本万里、「現代ブータンにおける聖俗の境界 チャムの担い手とその変遷」、『アジアの無形文化における仮頭の研究 仮面との比較から』、査読無、pp. 57-66、立教大学アジア地域研究所、2011年。

宮本万里、「現代ブータンの環境主義と国民形成 国立公園政策からみた自画像のポリティクス」、『多民族社会における宗教と文化』、査読無、第13号、pp. 15-40、宮城学院女子大学キリスト教文化研究所、2010年。

〔学会発表〕(計 12 件)

宮本万里、「不殺生戒と肉食をめぐる文化の政治 現代ブータンにおける仏教振興と「屠畜人」の現在」、京都人類学研究会、京都大学、2014年2月18日。

宮本万里、「ネーションのプロジェクトと「マイノリティー」 ブータンにおける「ネパール系」人口とその難民化をめぐる」、2013年度「現代インド地域研究」国内全体集会、東京大学、2013年11月24日。

Mari Miyamoto, "Global Conservation Method and the Cultural Politics of Forest Grazing in Bhutan", IUAES2013, Manchester, 06 Aug, 2013.

宮本万里、「環境にやさしい我々」という自画像および主体をめぐる文化の政治について 現代ブータンの国立公園の事例から」、第244回民博研究懇談会、国立民族学博物館、2012年11月21日。

宮本万里、「現代不丹の聖俗界线 查姆舞の参与者及其变迁」中国湖南临武傩文化国际学术研讨会、临武县临武国际大酒店一楼大厅、2012年8月18日

宮本万里、「現代ブータンにおける制度と民主化をめぐる政治人類学的研究」、日本文化人類学会第46回研究大会、広島大学、2012年6月24日。

宮本万里、「現代ブータンにおける地方選挙プロセスと村落社会の価値変容」、日本南アジア学会第24回全国大会、大阪大学、2011年10月2日。

Mari Miyamoto, "Redefinition of the Cultural Borders in the Sphere of Environmental Conservation: National park management and slash-and-burn cultivation in Bhutan", BRIT (Border Region in Transition) 11th conference, Genève (Suisse) and Grenoble (France), 9 Sep, 2011.

Miyamoto Mari, "Formation of

ecology-oriented industrious body: Case study of slash and burn agriculture and locally brewed alcohol in Bhutan", American Anthropological Association 2010 Annual Meeting, New-Orleans, 17Nov, 2010.

宮本万里、「現代ブータンの民主化プロセス：選挙のなかの仏教僧と村落社会」日本南アジア学会第23回全国大会、法政大学多摩キャンパス、2010年10月2日。

宮本万里、「現代ブータンにおける環境保護の位相：国立公園の事例から」『セッション15：人間と環境、その境界を問い直す アジア諸国における比較研究から』国際開発学会第11回春季大会、北海道大学文系共同講義棟、2010年6月5日。

宮本万里、「アラからみたブータンの村落社会と国家」『セッション H-GG002：モンスーンアジアのフードと風土』日本地球惑星科学連合2010年大会、幕張メッセ国際会議場、2010年5月25日。

〔図書〕(計 4 件)

Mari Miyamoto, "Challenges from "Buddhist Environmentalism": Environmental Policies and Pastoralists in a National Park in Bhutan", in Yanagisawa (ed.), Natural Resources Management in Asia: Commons, National University of Singapore Press (under review).

宮本万里、「現代ブータンの国立公園と環境政策：焼畑規制をめぐる文化の政治」、木村武史ほかと共著、『現代文明の危機と克服：地域・地球的課題へのアプローチ』、pp. 107-130、日本地域社会研究所出版局、2014年。

宮本万里、「チャンからみたブータンの村落社会と国家」松本淳、横山智、荒木一視(編)『モンスーンアジアのフードと風土』、pp.204-220、明石書店、2012年。

宮本万里、「「仏教王国ブータン」のゆくえ—民主化の中の選挙と仏教僧」、鈴木正崇(編)『南アジアの文化と社会を読み解く』、pp. 397-434、慶應義塾大学東アジア研究所、2011年。

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 宮本 万里(Miyamoto, Mari)

国立民族学博物館・民族社会研究部・外
来研究員

研究者番号：60570984

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：